

### 〔嬉しいコラム紹介〕

男、二人

岡本 雄二郎

四万十市で所用を終えた帰り道中村警察署前の信号でのことである。

信号が赤に変わったので、ストップしたら、歩道右手から一人の少年が手を上げて渡ってくる。小学校4、5年生くらいかなと思って見ていた。近くに小学校がある。

ここは、押しボタン式の信号のようで、登校の時はどんな形式になっているのだろうと漠然と考えていたら、まもなく渡り終えた。信号は、まだ赤である。と、その少年は私の方に向かって姿勢を正して、しっかりと頭を下げたのである。

予想もしなかった彼の行為に、私は驚き、そして感動した。自分が道路を横切り、渡るために停車してくれた運転者に、「ありがとうございます」と心からの思いで頭を下げた真摯な態度が胸に響いていた。車を走らせながら、本物の教育がされているのだなあ、と豊かな気持ちに包まれた。

地域的に考えて「中村南小学校」の児童ではないだろうか。たとえ、先生方のご指導の「賜物」としても、あんなにしっかりとした誠実な態度と、感謝の気持ちが伝わってきたのは彼本来の資質のよさもあるのだろうと思った。（以下省略）

宿毛市立坂本図書館だより「さくら」No. 136（2011年10月号より）

◎子ども達への私達への、そして保護者の方々への嬉しい小論です。電話で、あるいは、直接、このような内容の声を寄せて下さる方も多数います。気持ちのこもった善行は、人の心に伝わります。小さなことを一つずつ積み重ねたいものです。